

ペポかぼちゃの種取りへ向けた栽培・加工支援

～恵庭市での種取りペポかぼちゃ支援～

活動年次：令和2～3年

石狩農業改良普及センター本所

1 課題設定の背景 *****

対象：恵庭市 ペポかぼちゃ生産者（1戸）

R2年、恵庭市で食用種子取りペポかぼちゃが試作され、生産者はかぼちゃ部会長で既に技術習得されている方だがペポかぼちゃ栽培へ助言（育苗、病害支援）が求められた。



写真1: 収穫間近のペポかぼちゃ

昨年、収穫後日数が経過したもので種子取り出し時に内部発芽が目立ち、食用種子の選別が困難な場面が見られたことから、収穫後の作業目安日の検討が必要であった。



写真2: ペポかぼちゃの種子

種取り後の大きな果実（約4kg/個）の処分に困っていたため廃棄果実の有効活用について検討が求められた。

食用種子：品種「ストライプペポ」
＝主に菓子食材として利用

2 活動の経過 *****



農研本部(H28)の
技術マニュアル活用

- 育苗管理（温度・水分）支援
- 早期定植支援、施肥支援
- 適期（早期）防除・農薬支援
（使用農薬：「かぼちゃ種子」のみ）
- 収穫後の内部品質支援
（収穫後の経過日数による内部発芽調査）
- 収穫・種取り後の廃棄果実に対する有効活用の支援
（畜産農家の餌にならないか？）



写真4: 緑マルチで定植準備



写真5: 種取り後、畜産農家に運搬されたペポかぼちゃ子実



写真3: 育苗中のペポかぼちゃ

3 活動の成果 *****



- 適期定植・育苗管理がされて、活着良好&生育順調だった
 - ⇒適期（早期）定植の改善（昨年6/19⇒本年6/2）により活着良好となり、高温少雨にも負けない生育だった（遠観による）。
- 適期（早期）防除が実施された
 - ⇒限られた農薬（使用農薬：「かぼちゃ種子」）の効果的活用支援により、早期防除が実施されたことで病害が抑えられ草勢が維持された。

写真6：生育状況(7月16日)

表1：うどんこ病防除および発生状況

	本年	R2
薬剤散布開始	7月10日	8月中旬
防除回数	4回	1回
うどんこ発生	微	甚

収穫後の品質調査（収穫後日数による発芽率）



切断後



種を取り出す

発芽している種 ⇒ 1粒ずつ選別



本年度の結果では、収穫後日数38日経過以降で内部発芽が多くなった
⇒ 作業の目安日として、その前に種子を取り出す事を確認。

表2 収穫後日数と種子発芽

収穫後日数 (日)	種子発芽粒数 (粒/個)	種子数 (粒/個)	発芽発生率 (%)
14	1	544	0.2%
30	1.3	543	0.2%
38	2.4	521	0.5%
45	8.1	532	1.5%

※収穫期間:9/11~20 調査個数10個

発芽発生率1.0%以下が望ましい

種子取り出し後の果実の有効活用の試み

種子取り出し後の果肉 ⇒ 大きくて(約4kg/個)廃棄が負担・・・
⇒ 家畜へエサ検討 ⇒ サンプルが牛に好評 ⇒ 肉牛農家が受け入れへ



種子取り出し後



運搬



牛のエサへ

	本年	R2
すき込み時間	0分/回	50分/回

※ 調査個数80個/1回

4 今後の活動 *****

新規作付け希望者への栽培支援・情報提供